
果てしない宇宙

タコさんウイナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

果てしない宇宙

【Nコード】

N6587B

【作者名】

タコさんウインナー

【あらすじ】

インカ国とハザマ国の戦いの中を生き抜いた1人の少年の生き様を描いた物語

謎の部隊（前書き）

初作品です

謎の部隊

時は20XX年ハザマ第13惑星は深刻な事態に陥っていた
時の惑星管理官グラスがインカ国に寝返ったとゆう噂がでた事によ
り惑星内で内乱が起きてしまったのだ

ハザマ第1惑星・作戦会議室

「まったく困ったものだ」

「ゼム総督困つてばかりいらませんか、もし噂が本当ならインカ国の
艦隊がかの惑星に向かっていているはずです」

「ポール・・そうであった例の部隊の調整はどうなっている」

「部隊の訓練は終わっていますですが感情・いや指揮官がまだ・・・
「感情がどうしたんだ？」

「いえ、何でもありません」

「ならいいが・・指揮官か?・・・デリー大尉はどうだ？」

「戦場の鬼と言われているデリー大尉ですか？」

「そうだ！奴なら例の部隊を指揮することができるだろう」

「すぐに連絡致しますそれでは失礼いたします」

「グラス・・・本当に裏切ったのか・惑星管理官までしてやったの
に・・・」

作戦会議

第1惑星・就寢室

ジエスはいつものように6時きっかりにベットからでて顔に水をつけ眠気をとっていた

「ジエス、今日の出撃の日だぞ、今日はもう少し寝ておけ」

「今日誰に会うか知らないのか？鬼だぞ（鬼）寝ぐせなんかあったら殺されちまう」

「戦場の鬼……なんでよりもよってデリー大尉なんだ……あの人が怖いんだ」

「あの人はクローン人間だって話したからな」

（ピピピ……ピピ）

「時間だカルロス、早いとこいこう、」

「ああ……いこう」

第1惑星・ドック

「私は戦場の鬼と言われているデリーだ

諸君は厳しい訓練により感情をなくした者がいるそうだが戦場ではそれが良いことになるかもしれないぞ」

（オホッソ）

「私は今まで幾多もの戦場を生き抜いたが、戦場では仲間への感情が己を破滅される……私は戦艦を1人で乗っ取った事もあるぞ……あと」

「ジェス、これって作戦にあんまり関係ないよな」

「ああ、ちよつと自慢話しになってるよな」

「そこおおお作戦会議中に私語とは

もしここが戦場なら銃殺刑だぞ」

「……………すいません」

「わかったならいい、」

「少し雑談が増えたな……………そろそろ本題にはいるか

諸君らはこれから内乱の起きている第13惑星に出発する」

「第一目標は惑星司令官グラスの身柄確保」

「第二目標は反乱軍リーダーの身柄確保だ」

「付け足すとかの惑星には、武装犯罪組織VAIOの本拠地がある
とゆう噂がある……………」

「見つけても無視するように」

「何か質問は？」

「大尉!!」

「ライアン・ジェスなんだ」

「噂が本当ならインカ国の艦隊が近づいてるはずですが……………」

「それなら平気だ我が軍の、最強艦隊クリスマスが出航した」

「クリスマスが……………分かりました」

「他に質問は……………ないなそれでは戦艦に乗り込め」

「了解しました」

旅路

第一惑星・ドック

「全員乗り込んだな………よろしい」

(ジジ……メインエンジン100% サブエンジン85% 出力全開……)

「管制塔こちらデリー大尉
発進準備整いました」

「こちら管制塔 発進を許可する
幸運を祈る生きて帰れ」

「了解………よし>戦艦ライン<発進」

(ゴオオオオオオ………)

戦艦ライン・休憩室

はぁ13惑星か……パキン博士元気だといいいけどな……

そっいえばパキン博士の孫も参加してるんだよねどこにいるのかな

「おゝいジェス！緑色の服きた奴、見たか」

「なんだよ？60才のおじいちゃんだったって言うんだろ」

「違うんだよそれが！俺が（よろしくな）っていったら頭に銃突きつけてきたんだよ」

「それが近所のおじいちゃんだったんだろ？」

X

「……………」

「……………もういい」

「ジョークだよ、戦争の事しか考えられなくなった奴だろ、きつと」

X

「君たち、感情をなくさなかったのか……………」

「誰だおまえ！！」

「そんないい方するなよ、カルロス」

「自己紹介が遅れましたゼロと言いますあなたがたは？」

「名乗るほどの者ではございません フツ」

「すいません…こいつはカルロスで僕はライアン・ジェスと言います」

「そうか！ジェスさんかドックで大尉に質問してた、いやー鬼大尉に質問するなんて勇氣ありますね」

「いいや それぐらいがとりえですから」

「そうですかけど

とりえがあるだけましですよ

それではまた、カルロスさん ジェスさん」

「……………ああ」

「ジェス！俺らも部屋に戻ろうぜ」

「そうしよう」

戦艦ライン・個室A

（ピピピ カチャカチャカチャ ピー メール送信終了）

送信完了っと……………まさか感情を残せるような輩がいたとは

要注意人物リスト

ライアン・ジェス

カルロス・ボーン

ジェニファー・ミーア

パキン・シヨウ

4人もか……………厄介だな……………しかし始めるしかないか……………

父親……………かならず最優秀兵士章をとって見せます……………

旅路パート2

戦艦ライン・操縦室

「デリー大尉！

このままの速度で進めば45分後に

13惑星の防衛用レーザーの射程圏に入ります！」

「了解した…

25分前になったら全員を作戦会議室に集める！」

「了解」

（ピ ピ ピ プルルル）

「こちらはデリー大尉！

情報部に繋いでくれ

」

「何の御用でございますか？」

「40分後レーザーの射程圏に突入する

安全のため聞くがレーザーが発射されないという情報は確かなのか？」

「それが……惑星内における銃撃戦で破壊されたいんですが…

…」

「……………」

「数分前から、かの惑星内から（レーザー 危険）という軍隊用

の暗号が送られてきているんです、」

「でえ、上の奴らは何とっている」

「（レーザー発射の危険なし、作戦を続行せよ）とのメールが先ほど届きました、」

「了解、作戦を続行する

着陸したらまた連絡する……………（…ピ）」

はあ、馬鹿な奴らだ、レーザーは必ず発射されるだろう……
ダミーの準備をしなくてはいけないな！

暗号を送った奴も

うかばれないな……………

戦艦ライン・個室B

（ 父さんへ

明日には、僕の所属している軍隊が惑星を平和にしてくれるからそれれまでは

地下で隠れているんだよ

あと…戦艦でルームメイトになったジェニファーっていう女の子、
茶髪で背が僕と同じ位で目が大きくて可愛い子何だけど……

「何だけど……の先を書きなさいよ！シヨウ」

「かつ勝手に見るなよ、

それからパキンってよべっていったろ！」

「なによ冷たい、ルームメイト何だから

いいじゃない ショウ」

「ショウってよおぶうなあああ！」

「わかった、わかった！それよりも最終作戦会議が始まるよ、」

「先、行ってくれ直ぐに着替えていくから」

「了解♪」

「あつメール途中だった送らなきゃ…」

（…ちよつといじわるだな…話が脱線したね…平和になるまで地下にいるんだよ絶対にいい♪

ショウ）

「……………送信♪」

よし早いとこ作戦会議室に行かなきゃ」

戦艦ライン・個室U5分前

「……………ジェス」

「カルロスどうした？顔色が悪いぞ」

「俺、戦場に行く事を考えたら
ビビッチまったんだ」

「カルロス……」

それが普通だ俺も足の震えが止まらない」

（ウーーン ウーーン ウーーン

これより最終ミーティングを行う10分で身支度を済ませて

作戦会議室に集合せよ)

戦艦ライン・個室A

ついに始まるのか……

兄貴ですら取れなかった最優秀兵士賞…

これを取り父上を見返してやる……

父上の後継者はこのハンデングール・ゼロ様だああ

間違っても兄貴ではない

突入

戦艦ライン・作戦会議室

「全員揃ったようだな…」

これより作戦内容の最終打ち合わせを始める！」

「……………了解」

「まず上陸までの流れを話す

まず惑星のレーザー防御用バリアを戦艦で突破する

突破した所で突入メンバーごとに上陸用カプセルで上陸する

上陸ポイントは元軍事基地の近くだ！

なお突入メンバーは後ほど発表する

上陸に成功したら基地の中に集合する

そこからの作戦はそこで発表する……………以上

……………質問はないか」

「……………」

「ならば突入メンバーを発表する

まずα小隊

小隊長 ハンデングール

副隊長 マルタン

隊員 ……………

隊員 ……………

隊員 ……………

衛生兵 グランド

……以上」

「オッホン！続いて
A小隊

小隊長 オーソン

副隊長 ライアン

隊長 カルロス

隊員 パキン

隊員 タイラー

衛生兵 ジェニファー

以上」

「続いてB小隊………以上
C小隊………以上、」

「呼ばれなかった奴は私の部隊だ……
これで作戦会議は終了だ
小隊長は私について来い後は武器の点検をしておくように」

「ジェス！一緒の部隊だな」

「カルロス………？」

顔色が良くなってるぞ、

俺と同じ部隊だからって危険じゃないわけじゃないんだぞ」

「ジェスと一緒になら

そりゃあ顔色も良くなるぜ」

「カルロス、あんまり調子に乗るな
それより隊長の世話そうぜ」

「オーソンだっけ？」

あの人訓練で見たぜ、射撃の腕はかなり良いぜ」

「本当か？まあ隊長に選ばれたくらいだからなあ……」

「ちょっとあんた達 隊長の悪口いってんじゃないわよ！」

「ミーマやめとけて」

「なんだと！悪口なんていってねえよ
なあジエス？」

「すいません、

この子こんな喋り方しかできないんで」

「もしかして君がパキン……？」

「はあ…パキンですけどあなたは確か…
ライアン・ジエスさんですね！」

「ああそうだ！君がか…」

パキン博士に優しい所がそっくりだ」

「おじいちゃんを知ってるんですか！」

「ああ、昔お世話になった…」

博士は元気？」

「おじいちゃんは、13惑星にいるんで…
元気だといいんですが…」

「きつと元気だよ！」

「雑談はそこまでだ！」

私はこの部隊の隊長をする事になったオーソンだよろしく」

「よろしくお願いします」

「これから上陸用カプセルに乗りこむ雑談せずについて来い」

（スタ スタ スタ）

「よし一列に並べ軽いコミュニケーションと武器の点検をしてから乗ってもらう」

「まずジエス！」

「はい！」

「君は副隊長だ

他の隊員のお手本になるように心掛けるように」

「頑張ります！」

「次、カルロス」

「はい」

「君は…ジエスの親友だったな…

まあかんばれ！」

「オッス！」

「次シヨウ！」

「はい！」

「君は優秀なハッカーらしいな期待してるぞ」
「よろしく願います」

「次ミニア」
「はい」

「無理せず頑張ってくれ！」
「はい隊長」

「次タイラー」
「……」

「今は許すが戦場で無視すれば許さんからな！」
「……フツ」

（ガツチャン）

「これから重要な事を伝える！」
我がA小隊は極秘任務に付くことになった
私達を選ばれたと言う事は私達は優秀だと言う事だ喜べ

内容は… 惑星防衛軍司令官ゼクセル様の救出だ
任務の変更によって上陸ポイントが大幅に変更になった
新しいポイントは防衛軍基地近くの飛行場だ！

極秘任務のためカプセルを地上に落下させずに空中で爆破させる事になった、

何故、爆破するかは分かるな！

…死んだとおもわすためだ！」

「隊長！」

「ショウ！」

「パラシュートで落下するんですか？」

「そうだ！」

落下後は私のもとに集合だ、

5分たつても集まらない者は置いていく！……以上」

（ ウーン ウーン ウーン

緊急事態発生 惑星ヨリレーザー攻撃 惑星ヨリレーザー攻撃）

（ 諸君聞こえているかデリー大尉だ

惑星から予想外のレーザー攻撃がはじまったが作戦時間・内容に変
更はない時間になったら

カプセルにて上陸を開始しろ ）

「聞こえたな！」

全員シートベルトを閉める！」

（艦長こちらA小隊隊長オーソン

084カプセル 準備完了 放出してください）

「こちら艦長了解した
全員揃って帰還せよ
幸運を祈る」

（ゴオオオオオオ）

「うわあああああ
助けてえええ」

「カルロス！黙れ（怒）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6587b/>

果てしない宇宙

2010年12月9日14時32分発行